

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

「個人と社会」：「歴史」— 上級レベル (HL)

2017年第1回試験 — 2025年最終試験

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する4つの主要要素について説明します。

I. コースの説明とねらい

II. カリキュラムモデルの概要

III. 評価のモデル

IV. 問題のサンプル



I. コースの説明とねらい

DPの「歴史」は、歴史に対して複数の観点による比較アプローチをとることを基本とする世界史のコースです。政治、経済、社会、文化など、さまざまな種類の歴史を学習するこのコースは、体系的な学習と柔軟な学習を適度なバランスで提供します。

このコースで強調するのは、歴史的に考察するよう生徒に働きかけること、また歴史的なスキルを発達させて、事実にもとづく知識を習得することです。特に、批判的思考スキルを開発し、歴史に複数の解釈があるという理解を養うことを重視しています。このため、このコースは、過去について批判的に探究するという、チャレンジに満ちた要求度の高いコースです。教師は、思考スキルとリサーチスキルを明示的に指導します。これには、理解力、テキスト分析、転移、および一次資料の使用などが含まれます。

DPの「歴史」コースには、変化、連続、原因、結果、重要性、視点という6つの重要概念があり、これらの概念は全体を通して大きな役割を果たします。

DPの「歴史」のねらいは、次のとおりです。

- 過去に対する理解と、過去への飽くなき興味を育む。
- 多数のものの見方に触れて、歴史的な概念、問題、出来事、発展の複雑さに価値を認めるよう生徒に働きかける。
- 複数の地域の歴史を学ぶことにより、国際的な視野を育てる。

- 学問領域としての歴史に対する理解を育み、年代や前後関係の感覚をはじめとする歴史的な意識を育て、歴史に対する異なる視点の理解を育む。
- 文献を的確に扱うスキルなど、歴史学の重要なスキルを習得する。
- 過去を考察することにより、自分自身と現代の社会に対する理解を深める。

II. カリキュラムモデルの概要

構成要素	推奨される授業時間数
指定学習項目 次の指定学習項目のうち1つを学習する。その際、世界の異なる地域の事例研究を2つ使用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 軍事指導者 2. 征服とその影響 3. 世界規模の戦争への動き 4. 権利と抗議運動 5. 紛争と介入 	40

世界史トピック 次のトピックのうち2つを学習する。その際、世界の複数の地域のトピックの事例を使用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会と経済 (750～1400年) 2. 中世の戦争の原因と結果 (750～1500年) 3. 王朝と支配者 (750～1500年) 4. 過渡期の社会 (1400～1700年) 5. 近世の国家 (1450～1789年) 6. 近世の戦争の原因と結果 (1500～1750年) 7. 産業化のはじまり、発展とその影響 (1750～2005年) 8. 独立運動 (1800～2000年) 9. 民主主義国家の発展 (1848～2000年) 10. 独裁主義的国家 (20世紀) 11. 20世紀の戦争の原因と結果 12. 冷戦：超大国間の緊張と対立 (20世紀) 	90
HL 選択項目：詳細学習 次のうち1つを学習する： <ol style="list-style-type: none"> 1. アフリカと中東の歴史 2. 南北アメリカの歴史 3. アジアとオセアニアの歴史 4. ヨーロッパの歴史 	90
内部評価 (IA) 歴史研究	20

III. 評価のモデル

DPの「歴史」には、4つの評価目標があります。HLで学習する生徒には、次の目標を満たすことが期待されています。

評価目標1：知識と理解

- 詳細、適切、正確な歴史の知識を示す。
- 歴史的概念と歴史的文脈に対する理解を示す。
- 歴史の文献に対する理解を示す。

評価目標2：応用と分析

- 明確で論理的な議論を組み立てる。
- 関連性の高い歴史的な知識を使用して、分析を効果的に裏づける。
- さまざまな文献を分析し、解釈する。

評価目標3：統合と評価

- エビデンスと分析を統合して、論理的な議論を構築する。
- 歴史上の問題や出来事についての異なる視点を評価して、議論に有効に統合する。
- 歴史的エビデンスとして文献を評価し、その価値と限界を認識する。
- 関連する文献から得た情報を統合する。

評価目標4：適切なスキルの活用と応用

- 設問の要求に効果的に応える、焦点を絞った小論文を構成し、作成する。
- 歴史学者が用いる方法論と歴史学者が直面する課題について考察する。
- 歴史の探究を導くため、適切かつ焦点を絞った質問を組み立てる。
- リサーチスキル、および適切な文献を選択して参照し整理する能力があることを示す。

評価の概要

評価の種類	評価の形式	評価時間 (時間数)	最終的な成績に占める割合 (%)
外部評価		5	80
試験問題1	5つの「指定学習項目」に基づいた資料問題	1	20
試験問題2	12の「世界史トピック」に基づいた小論文形式の問題	1.5	25
試験問題3	4つの地域のうちいずれか1つの地域を選択する小論文形式の問題	2.5	35
内部評価			
歴史研究	自ら選択したトピックに関する歴史研究	20	20

IV. 問題のサンプル

試験問題1

条約規定の施行、軍縮、ロンドン海軍軍縮会議（1930年）に関する5つの資料を参照し、以下に取り組みます。

- ロンドン海軍軍縮会議の重要性について説明する。
- 異なる文献に見られるロンドン海軍軍縮会議についての複数の見解を比較・対比する。
- 資料の価値と限界を評価する。
- ロンドン海軍軍縮会議が失敗だったとする見方にどの程度同意するかを、資料と自身の知識を用いて議論する。

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/dp) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (store.ibo.org) でご購入いただけます。

DPが大学での成功の素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/university-admission) をご覧ください。